

経済レポート

グラフで見る東海経済(2016年9月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は、生産や輸出にみられた弱い動きが後退し、横ばい圏で推移している。生産は、自動車産業における生産停止の影響などにより弱含んでいたが、挽回生産もあって下げ止まっている。輸出は、7月の実質輸出が3ヶ月ぶりに減少したが、均してみると横ばいとなっている。雇用は、総じて横ばい圏で推移している。賃金は横ばい圏で推移している。個人消費は、物価の落ち着きによる下支え効果もあって横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。設備投資は、大企業を中心に増加している。住宅着工は、横ばい圏で推移している。公共投資は、均してみると弱含んでいる。

先行きについては、生産は自動車関連において挽回生産が順次終了となる中、生産全体を均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。輸出は、新興国経済減速の影響もあって横ばい圏での推移が見込まれる。消費は、所得環境が変わらない中、横ばい圏での推移が見込まれる。設備投資、公共投資も均してみると横ばい圏の推移が見込まれる。東海経済は、横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産	↗		→
設備投資	↗		→	雇用	→		→
公共投資	↘		→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド部分分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～イギリスのEU離脱問題、中国等新興国経済の減速懸念、米国の金融政策
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産動向、低調な工作機械受注、インバウンド消費の先行き
- ・政策～消費増税先延ばしの財政への影響、金融政策の総括と新しい枠組み導入の影響
- ・家計～賃金の改善状況と消費行動への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	4~5
2. 生産	下げ止まっている	下げ止まっている	6~8
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	増加が一服している	増加している	15~16
8. 公共投資	弱含んでいる	弱含んでいる	17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい	18~19
10. 物価	低下している	低下している	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

7. 設備投資

2016年4~6月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+16.2%と7四半期連続で増加した。

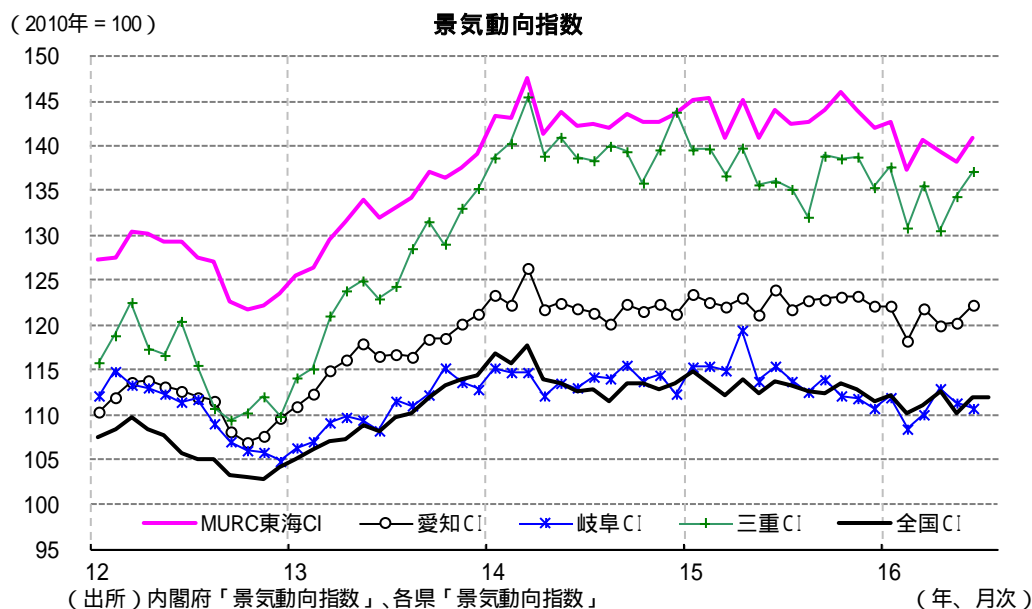
【主要経済指標の推移】

経済指標		15 4-6	15 7-9	15 10-12	16 1-3	16 4-6	16 3	16 4	16 5	16 6	16 7	16 8
景気全般	MURC東海景気動向指数(C I、一致指数)	143.3	143.0	144.0	140.2	139.5	140.7	139.4	138.2	140.9		
	景気動向指数 愛知(C I、一致指数)	122.8	122.5	122.9	120.8	120.9	121.9	120.0	120.3	122.3		
	岐阜(C I、一致指数)	116.3	113.5	111.6	110.2	111.7	110.1	113.0	111.4	110.8		
	三重(C I、一致指数)	137.2	135.4	137.6	134.7	134.1	135.6	130.6	134.4	137.2		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI)	52.0	48.9	48.5	46.8	42.4	47.1	44.7	42.2	40.3	44.2	43.9
	(先行判断DI)	53.9	49.2	49.6	48.4	44.5	46.3	44.8	48.2	40.5	47.1	47.5
生産	短観業況判断DI(大企業製造業)	13	8	9	1	3	6	<9月予想>				
	(中小企業製造業)	3	4	0	-3	-7	-12	<9月予想>				
	(非製造業)	9	13	16	11	6	2	<9月予想>				
	法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	1.1	1.0	1.0	0.5	0.8						
	非製造業(兆円)	0.5	0.4	0.3	0.2	0.5						
	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	-1.2	-0.6	3.2	-4.7	0.4	8.7	-1.5	-0.1	4.9	0.1	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	-0.8	-0.9	3.3	-4.5	0.4	4.3	1.0	-0.9	3.5	1.5	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-1.1	0.5	-1.3	-0.9	2.3	0.0	-0.3	4.4	-1.3	-3.0	
	鉱工業生産 輸送機械(")	-1.7	0.6	4.5	-4.5	3.8	16.9	-3.4	2.9	6.0	0.9	
	はん用・生産用・業務用機械(")	-2.4	-2.9	1.2	-5.4	-1.8	0.6	1.4	-2.7	0.0	-3.0	
電子部品・デバイス工業(")	-4.8	-3.7	11.0	-7.1	-10.2	7.3	-2.5	-3.4	5.2	3.5		
プラスチック製品工業(")	0.5	-0.2	6.8	-7.4	3.4	5.3	1.0	-0.7	6.7	2.1		
化学(")	-1.2	2.0	-6.8	-2.7	6.5	-2.7	10.2	0.0	2.5	0.4		
電気機械(")	5.6	1.3	0.1	0.1	4.0	0.8	4.6	-3.4	8.4	-4.1		
鉄鋼(")	-2.3	-0.2	0.2	-6.4	7.9	6.7	5.4	-0.3	1.9	-1.9		
金属工作機械受注 総受注(億円)	394.4	415.6	366.5	346.2	351.9	397.5	353.3	354.1	348.4	351.2		
国内受注(億円)	155.1	173.5	128.7	116.4	130.6	142.6	127.4	113.3	151.0	152.5		
海外受注(億円)	239.3	242.1	237.8	229.7	221.4	254.8	225.9	240.9	197.3	198.8		
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.8	2.7	2.6	2.8	2.5						
	就業者数(原数値、万人)	775	776	770	784	789						
	常用雇用指数 愛知	101.7	102.0	101.7	100.8	102.0	100.7	101.6	101.8	102.7		
	岐阜	99.7	100.7	101.1	101.5	102.2	101.7	101.8	102.5	102.2		
	三重	98.5	98.9	98.6	97.8	97.9	97.4	98.5	97.9	97.3		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.60	1.61	1.63	1.61	1.62	
岐阜(季節調整値、倍)	1.5	1.6	1.6	1.7	1.8	1.68	1.77	1.80	1.73	1.71		
三重(季節調整値、倍)	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.35	1.39	1.41	1.42	1.48		
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	2.45	2.54	2.58	2.41	2.44		
岐阜(季節調整値、倍)	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.44	2.54	2.64	2.23	2.35		
三重(季節調整値、倍)	1.9	1.8	1.9	2.0	2.1	1.97	2.16	2.04	2.01	2.19		
賃金	現金給与総額	0.3	1.1	1.0	0.6	0.7	2.2	-0.2	-2.1	3.2		
	所定内給与	0.6	-0.7	-0.6	-0.5	-1.0	-0.2	-1.0	-1.4	-0.5		
	所定外給与	3.3	4.1	4.5	-0.7	0.0	0.0	-0.5	1.0	-0.3		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	7.3	7.2	-9.7	-10.6	-1.3	-7.8	-3.0	-7.6	3.9	-1.2	
定期収入	7.3	7.2	-9.7	-10.6	-1.3	-7.6	-2.6	-5.6	-3.0	-3.2		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	2.2	-7.3	-6.5	-3.6	4.2	-8.4	12.2	6.2	-5.8	11.2	
	百貨店販売額(名古屋市内)	8.3	15.0	3.1	-2.0	-0.8	-2.3	-3.8	-5.7	-2.8	-1.5	-5.8
	百貨店+スーパー販売額						-0.3	-1.0	-3.1	-1.1	-0.4	
	コンビニエンスストア販売額	6.9	5.2	4.6	4.5	2.7	2.8	3.2	1.8	3.1	2.7	
	新車登録台数(含む軽)	-5.4	-7.6	-8.6	-6.9		-7.5	5.3	-0.7	-6.4	0.8	2.1
	家電大型専門店販売額	1.8	4.3	-0.6	-0.6		-8.3	1.5	-2.1	4.3	2.5	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	42.6	42.7	41.6	41.4	40.9	41.8	40.6	40.7	41.5	40.2	41.8
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	26.0	26.6	27.9	25.2	25.6	28.2	21.4	27.2	28.2	26.5	29.2	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済、千戸)	106.0	106.4	99.5	107.2	106.5	111.8	106.0	108.3	105.2	110.6	
	(前年比、%)	3.5	9.6	3.6	5.6	0.6	7.8	2.6	0.9	-1.4	1.8	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	2.3	13.9	8.9	2.7	11.3						
	(非製造業)	13.9	26.7	11.2	-3.1	22.9						
企業立地件数	-	-	-	-	-	23	11	20				
公共投資	公共工事請負額	-1.5	-6.3	0.7	7.3	-10.4	15.9	-8.4	-15.0	-10.3	-23.2	25.6
輸出入	実質輸出(季節調整済、2010年=100)	107.6	109.0	115.3	112.0	110.3	110.6	107.5	108.1	115.2	111.4	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	4.5	2.2	-0.5	-6.9	-8.4	-6.3	-10.7	-7.4	-6.9	-14.6	-8.9
	実質輸入(季節調整済、2010年=100)	117.2	119.3	118.4	116.9	115.2	116.3	109.3	117.3	118.8	113.1	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-5.6	-7.0	-11.8	-17.2	-19.2	-13.5	-26.1	-9.5	-20.7	-25.6	-18.4
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	0.4	-0.2	-0.2	-0.3	-0.6	-0.6	-0.6	-0.7	-0.6	-0.7	
	(食料及びアルコールを除く総合)	0.6	0.6	0.7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.3	
金融	国内銀行預金残高	3.6	3.4	2.9	2.7	3.0	3.2	4.0	2.7	2.3	3.5	
	国内銀行貸出残高	2.5	2.0	2.1	1.6	1.3	1.1	1.4	1.4	1.0	1.3	
倒産	倒産件数	-8.1	3.8	-21.8	-5.5	-11.1	-6.4	-17.6	-15.9	-1.3	-17.5	-1.5

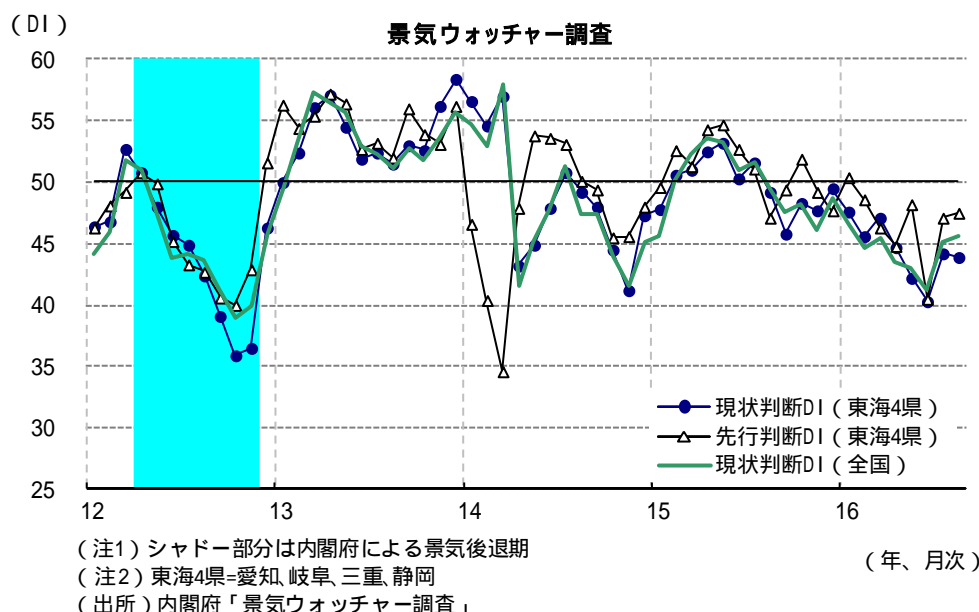
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばい圏で推移している

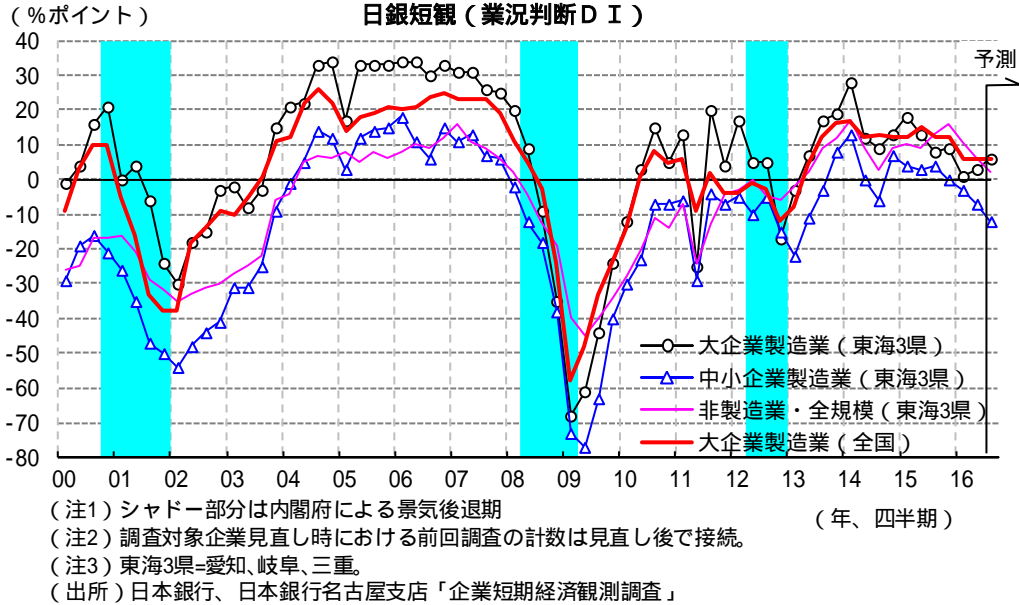
6月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列7系列(生産指数(鉱工業)、生産指数(金属工作機械)、有効求人倍率、人件費比率、大型小売店販売額、実質輸入、所定外労働)のうち、有効求人倍率、人件費比率を除く5系列がプラス寄与となり、前月差+2.7ポイントと3ヶ月ぶりに上昇した。東海3県各県の6月の景気動向指数(CI一致指数)は、愛知県と三重県が2ヶ月連続で上昇し、岐阜県が2ヶ月連続で低下した。



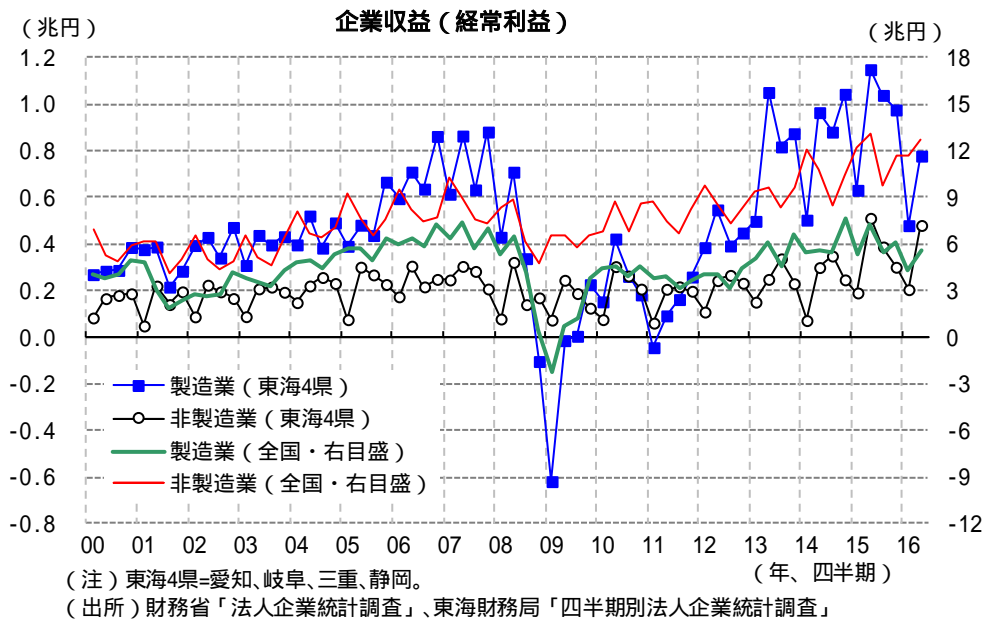
8月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIが43.9と2ヶ月ぶりに低下(前月差-0.3)し、景気の横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断DIも42.0と2ヶ月ぶりに低下(前月差-2.0)し、13ヶ月連続で50を下回った。先行き判断DIは、英国のEU離脱問題の影響が薄れて、同+0.4ポイントの47.5と2ヶ月連続で上昇したが、50を7ヶ月連続で下回った。



日銀短観6月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+3と、前回3月調査から2ポイント上昇、中小企業製造業は-7と4ポイント低下、非製造業[全規模]は、5ポイント低下の+6となった。業況判断D Iの9月予測は、大企業製造業は+6と改善が見込まれるが、中小企業製造業(-12)と非製造業[全規模](+2)はいずれも6月に比べて悪化が見込まれている。

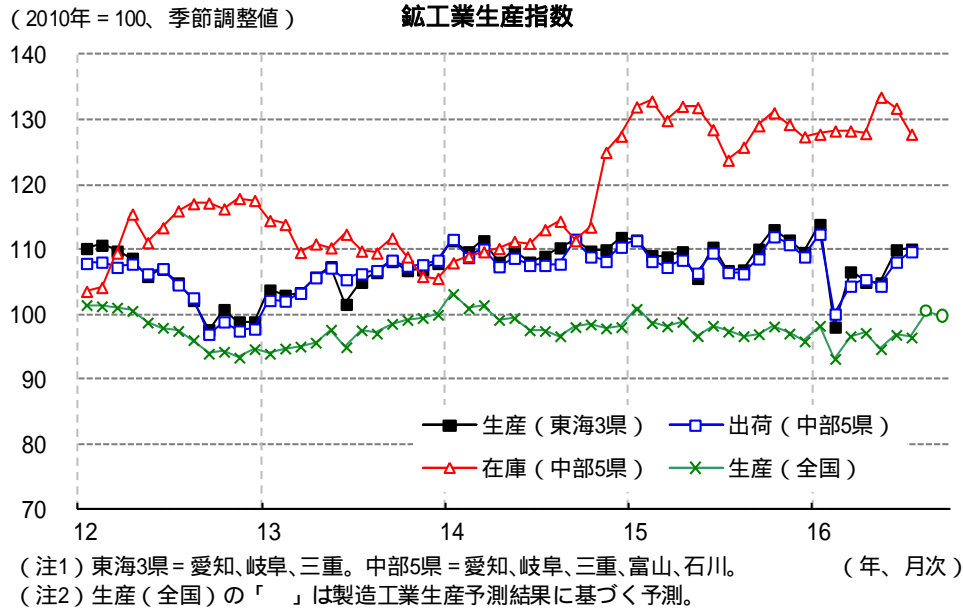


2016年4~6月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-24.2%と三四半期連続で減少した。製造業は同-32.3%と三四半期連続で減少し、非製造業は同-6.0%と9四半期ぶりに減少した。日銀短観6月調査では、東海3県の15年度の経常利益(全産業)は同+11.3%と増益となった。16年度は、全産業が同-25.9%、製造業が同-29.5%、非製造業が同-15.6%と、いずれも大幅減を見込んでいる。

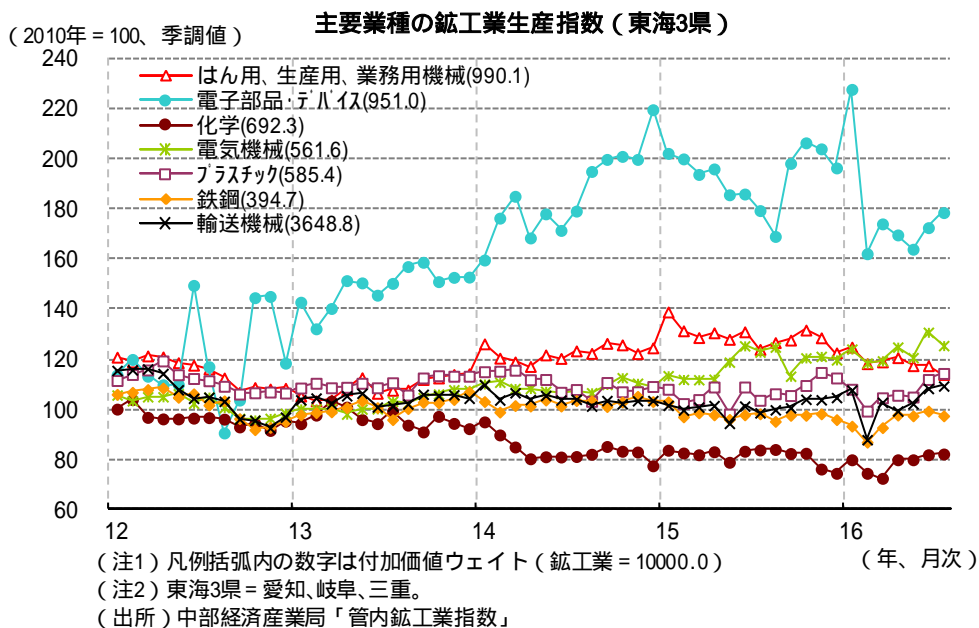


2. 生産 ~ 下げ止まっている

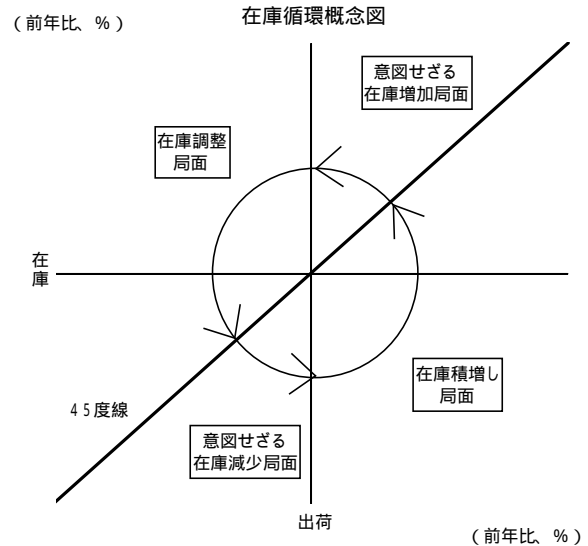
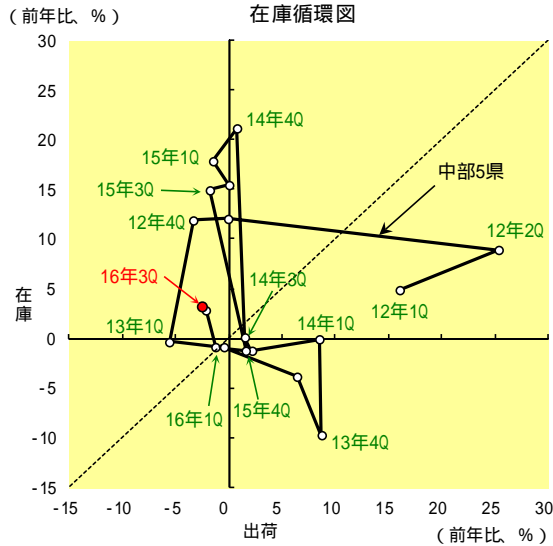
7月の東海3県の鉱工業生産は前月比+0.1%と2ヶ月連続で増加した。金属製品、電気機械などが減少したが、輸送機械、電子部品・デバイス、情報通信機械などが増加した。東海の実産は、自動車関連における生産停止などにより大きく水準を下げていたが、その後の挽回生産などもあって、下げ止まっている。先行きについては、横ばい圏の推移が見込まれる。



業種別では、はん用・生産用・業務用機械 (前月比 - 3.0%)、電気機械 (同 - 4.1%)、鉄鋼業 (同 - 1.9%) がそれぞれ2ヶ月ぶりに減少したが、輸送機械 (同 + 0.9%) は3ヶ月連続で増加し、電子部品・デバイス (同 + 3.5%)、プラスチック製品 (同 + 2.1%) はいずれも2ヶ月連続で増加した。

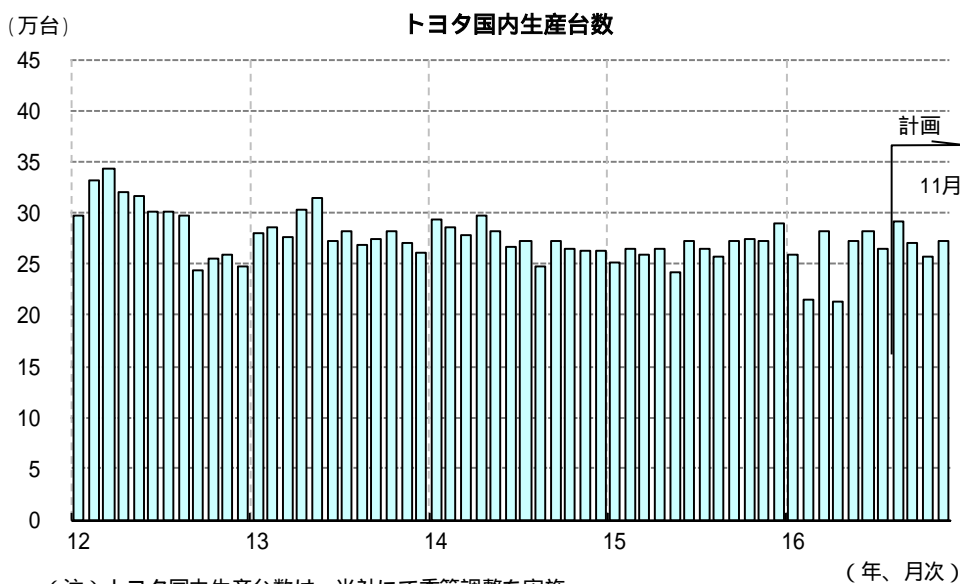


7月の中部5県の出荷は、前月比+1.5%と2ヶ月連続で増加した。金属製品(前月比-8.8%)などが減少したが、輸送機械(同+2.5%)、電子部品・デバイス(同+7.3%)などが増加した。在庫は、同-3.0%と2ヶ月連続で減少した。電気機械(同+13.8%)などが増加したが、電子部品・デバイス(同-12.8%)、輸送機械(同-29.5%)などが減少した。



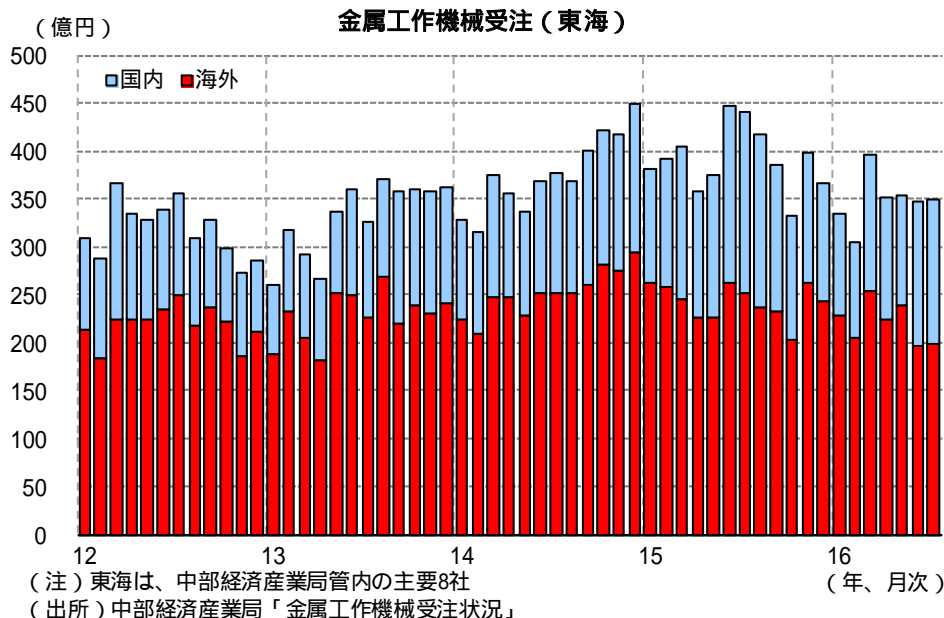
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川
 (注3) 直近16年3Qの出荷、在庫は7月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(16年9~11月)の国内日当たり生産台数は1万2千台前半から1万3千台後半のレンジで推移するが、徐々に減少する見込みである。6月以降行ってきた愛知製鋼工場爆発事故、熊本地震などによる減産分の挽回生産も順次終了となり、年末にかけて生産水準がやや低下する見込みとなっている。



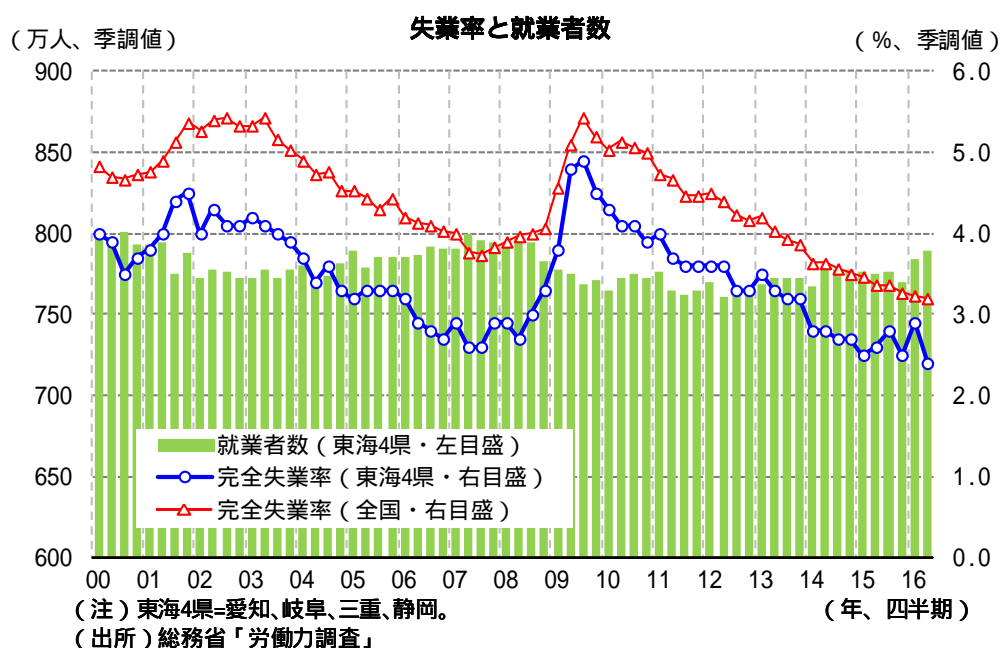
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

7月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 20.4%と11ヶ月連続で減少した。国内受注(同 - 19.0%)が10ヵ月連続で減少し、海外受注(同 - 21.5%)は2ヶ月連続で減少した。地域別では、アジア(含む中国)向けが13ヶ月連続で減少し、米国向け、欧州向けがともに4ヶ月連続で減少した。メキシコ向け(同 + 474.6%)は前月に続き大幅増となった。

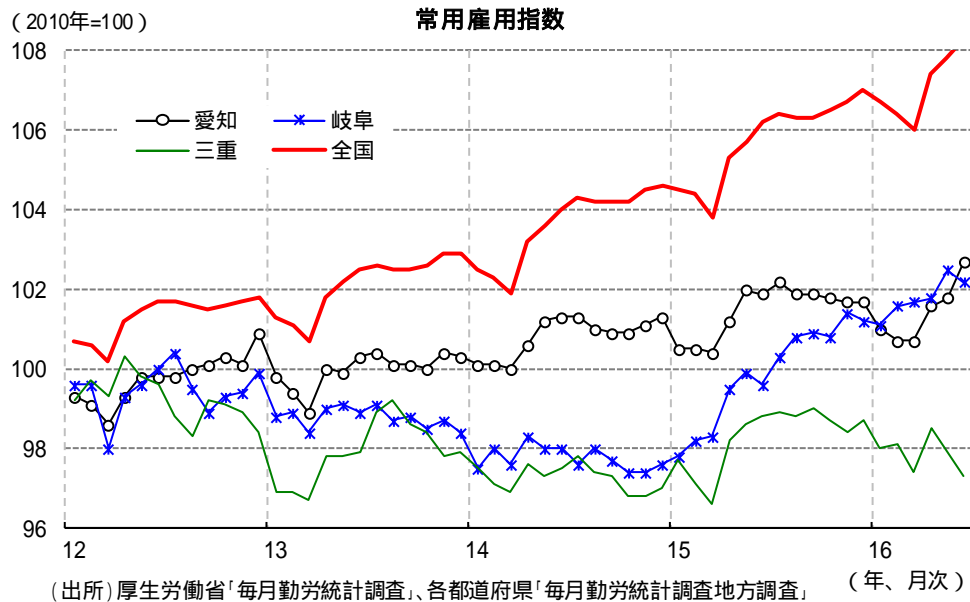


3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

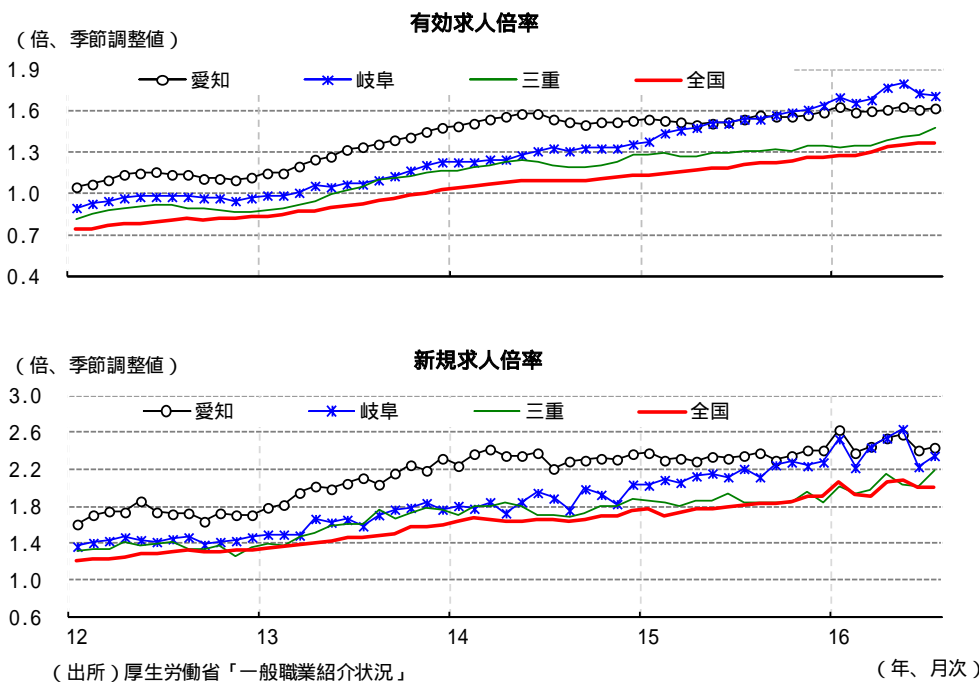
2016年4~6月期の東海4県の完全失業率は2.4%(前期差 - 0.5%ポイント)と低下、全国(3.2%)に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は同5万人の増加、完全失業者は同4万人の減少となった。有効求人倍率は高水準で横ばい圏で推移しているが、東海3県の常用雇用指数は、岐阜県を除いて全国に比べて弱い動きとなっている。



6月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.8%と2ヶ月ぶりに、岐阜県は同+2.6%と18ヶ月連続でそれぞれ上昇した。一方、三重県は同-1.5%と2ヶ月連続で低下した。東海3県の常用雇用指数は、岐阜県を除いて全国(同+2.0%)と比べて弱い状態が続いている。

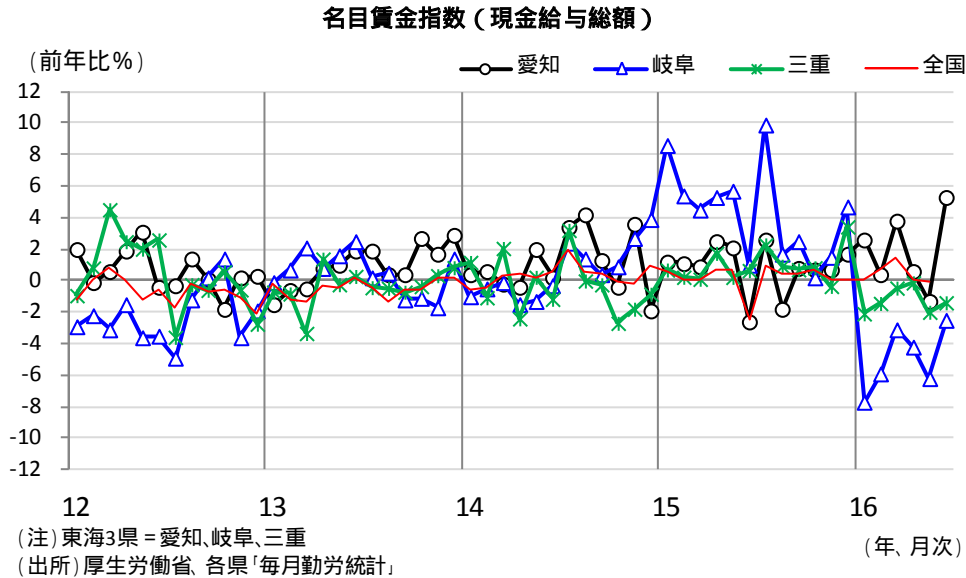


7月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.62倍と前月(1.61倍)を2ヶ月ぶりに上回った。岐阜県は1.71倍と2ヶ月連続で前月(1.73倍)を下回った。三重県は1.48倍と4ヶ月連続で前月(1.42倍)を上回った。新規求人倍率(同)は、愛知県(2.44倍)、岐阜県(2.35倍)はともに2ヶ月ぶりに上昇し、三重県(2.19倍)は3ヶ月ぶりに上昇した。

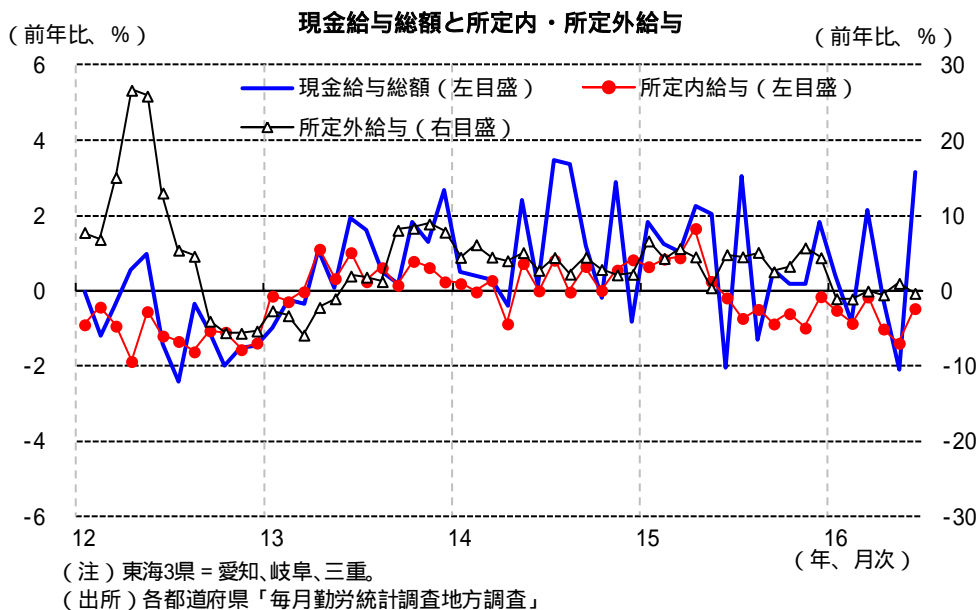


4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

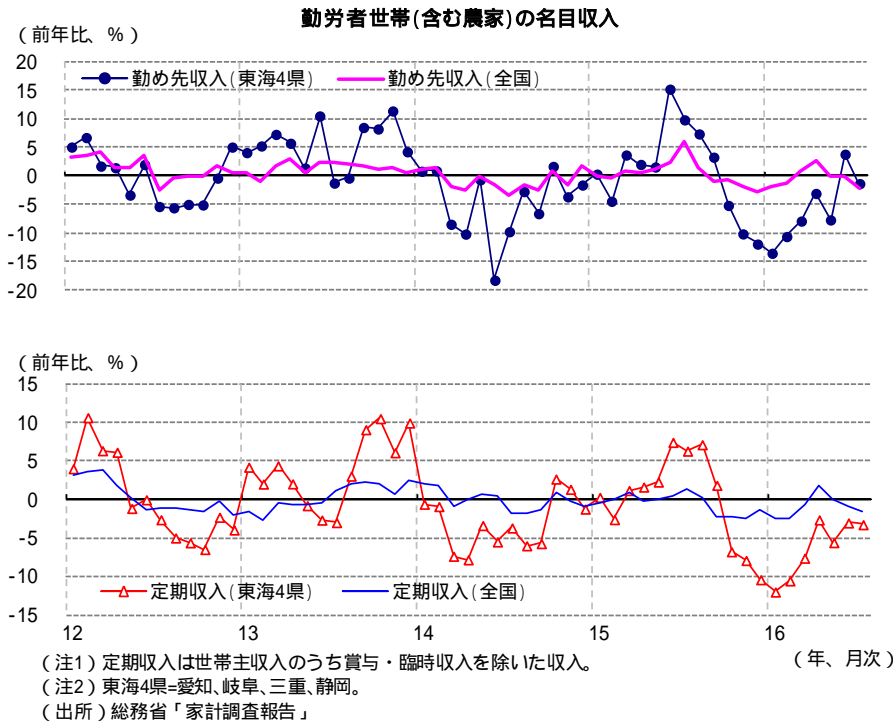
東海3県の6月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、岐阜県は前年比 - 2.5%、三重県は同 - 1.4%といずれも6ヶ月連続で低下したが、愛知県は同 + 5.3%と2ヶ月ぶりに上昇した。東海3県の賃金は月毎の変動が大きい、均してみると横ばい圏で推移している。今後については、自動車の挽回生産による押し上げの可能性のあるものの、全体としては横ばい圏での推移が見込まれる。



東海3県の6月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比 + 3.2%と3ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、所定外給与は同 - 0.3%と2ヶ月ぶりに減少し、所定内給与は同 - 0.5%と13ヶ月連続で減少したが、ボーナスなど特別給与が増加した。

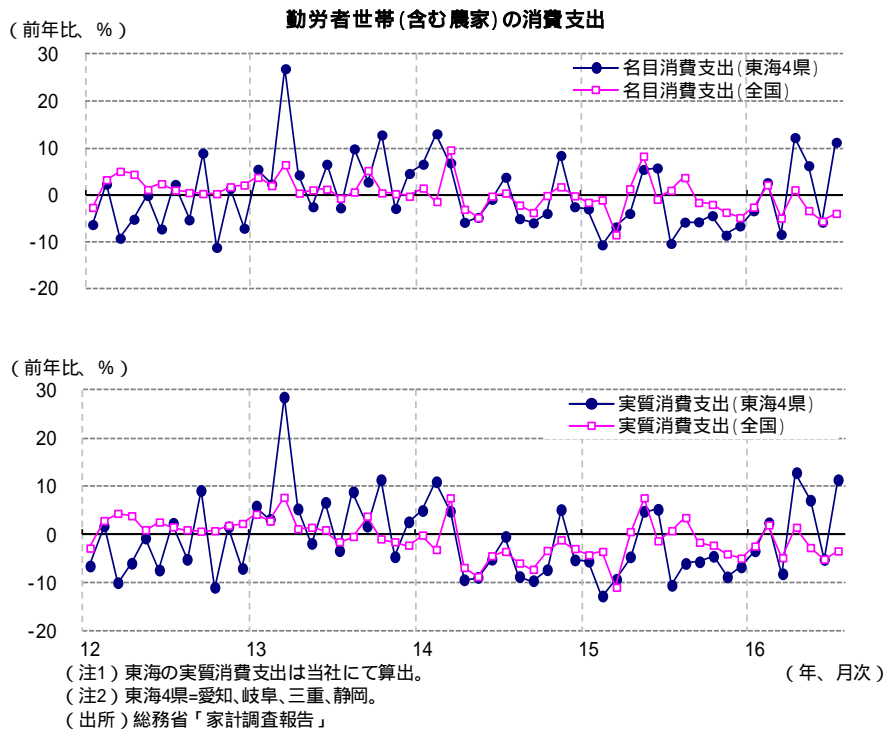


家計調査によると、7月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 1.2%と2ヶ月ぶりに減少した。また、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）は前年比 - 3.2%と10ヶ月連続で減少した。

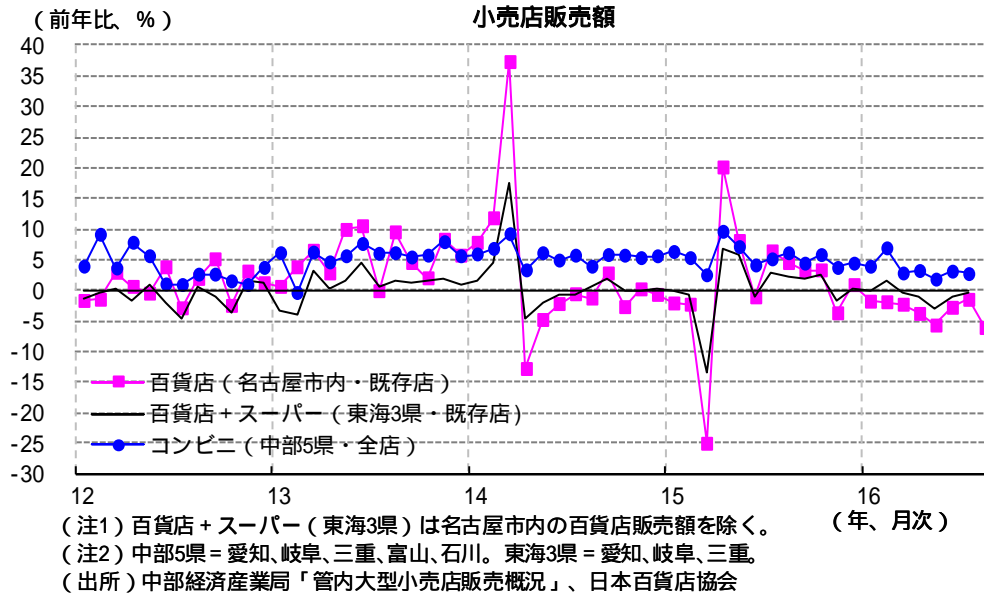


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

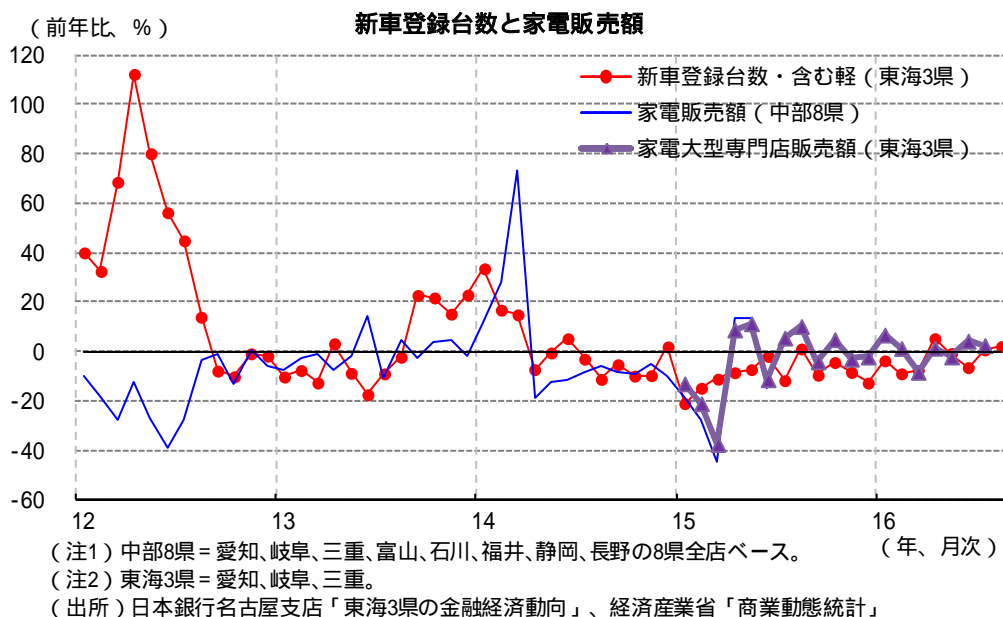
7月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比 + 11.2%、実質で同 + 11.9%と、いずれも2ヶ月ぶりに増加した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



7月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は前年比-0.4%と5ヶ月連続で減少した。一方、7月の中部5県のコンビニ販売額(全店)は同+2.7%と増加が続いた。8月の名古屋市内の百貨店販売額は、土日祭日が前年より1日少なかったことに加え、秋物衣料の不振や時計・宝飾品など高額商品、訪日外国人向け免税品などの販売不振などから、同-5.8%と8ヶ月連続で減少した。

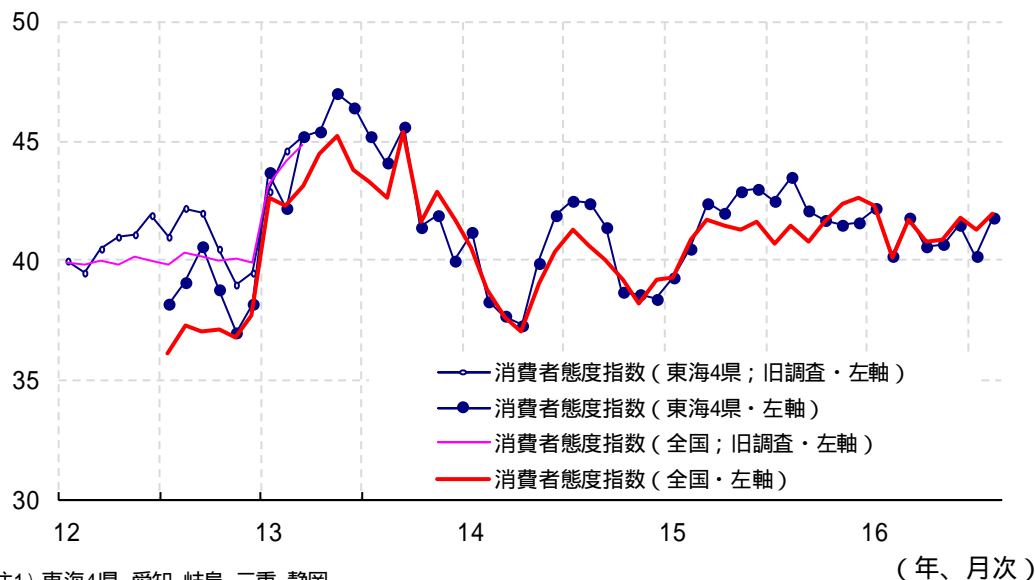


8月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、車体課税見直しの影響により軽自動車販売は引き続き落ち込みが続いている中で、小型乗用車も4ヶ月連続で減少したが、普通乗用車が9ヶ月連続で増加し、全体で前年比+2.1%と2ヶ月連続で増加した。また、7月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同+2.5%と2ヶ月連続で増加した。



消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、8月は前月差+1.6ポイントと2ヶ月ぶりに上昇した。消費者マインドは、実質所得の落ち着きにより横ばい圏で推移している。今後については、内外景気の先行き不透明感が続くものの、横ばい圏での推移が見込まれる。

消費者態度指数(一般世帯、原数値)

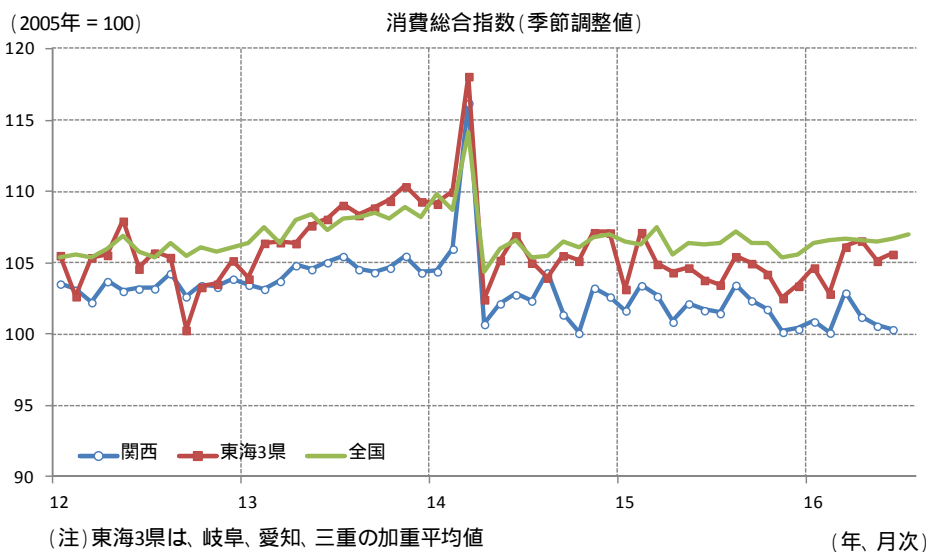


(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

(注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。
2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。

(出所)内閣府「消費動向調査」

内閣府が8月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げ横ばい圏で推移している。

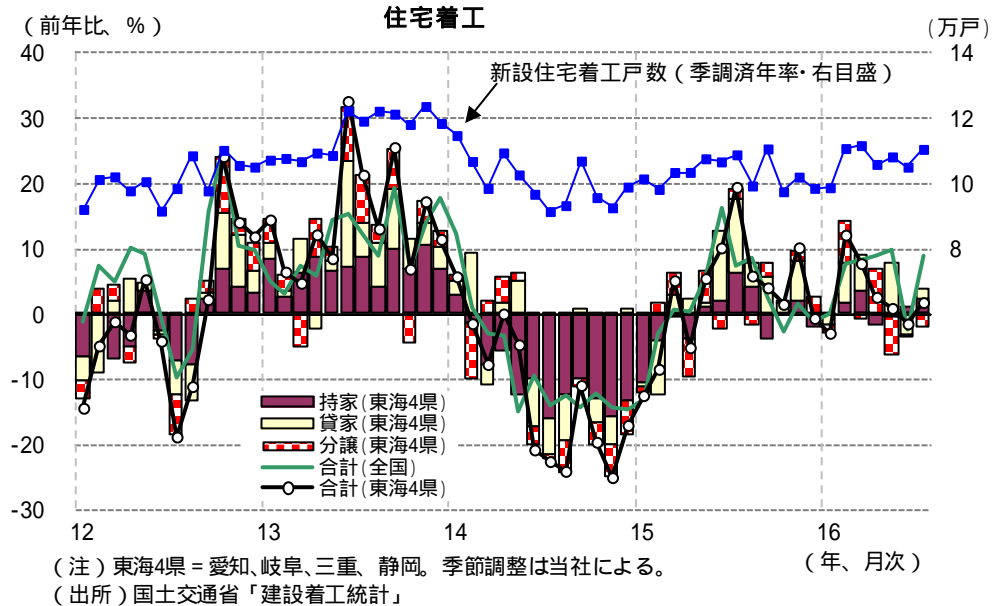


(注)東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値

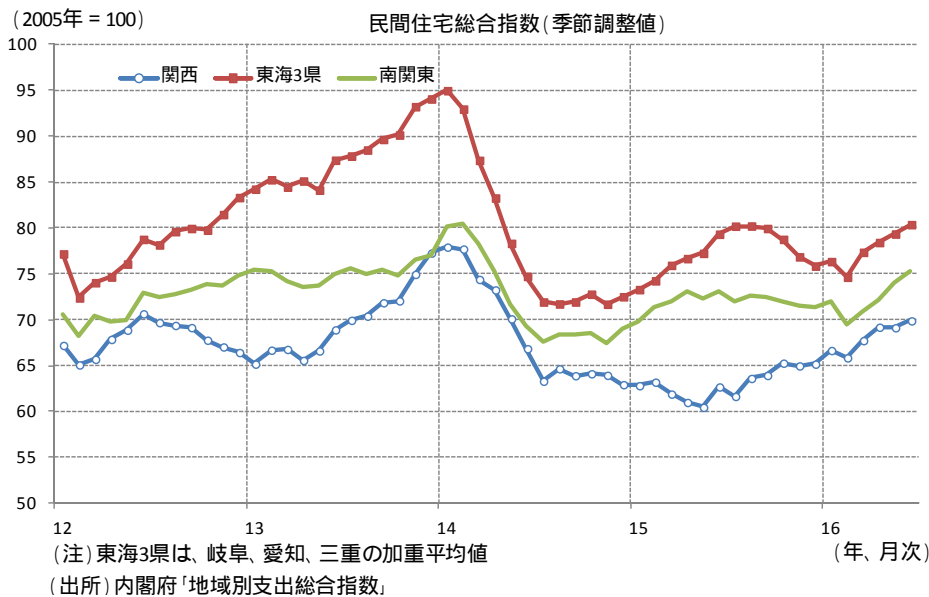
(出所)内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

7月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+5.2%と2ヶ月ぶりに増加したが、基調としては横ばい圏で推移している。前年比では+1.8%(9,626戸)と2ヶ月ぶりに増加した。利用関係別の寄与度は、分譲は3ヶ月連続でマイナス寄与となったが、持家が2ヶ月連続で、貸家は2ヶ月ぶりにそれぞれプラス寄与となった。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

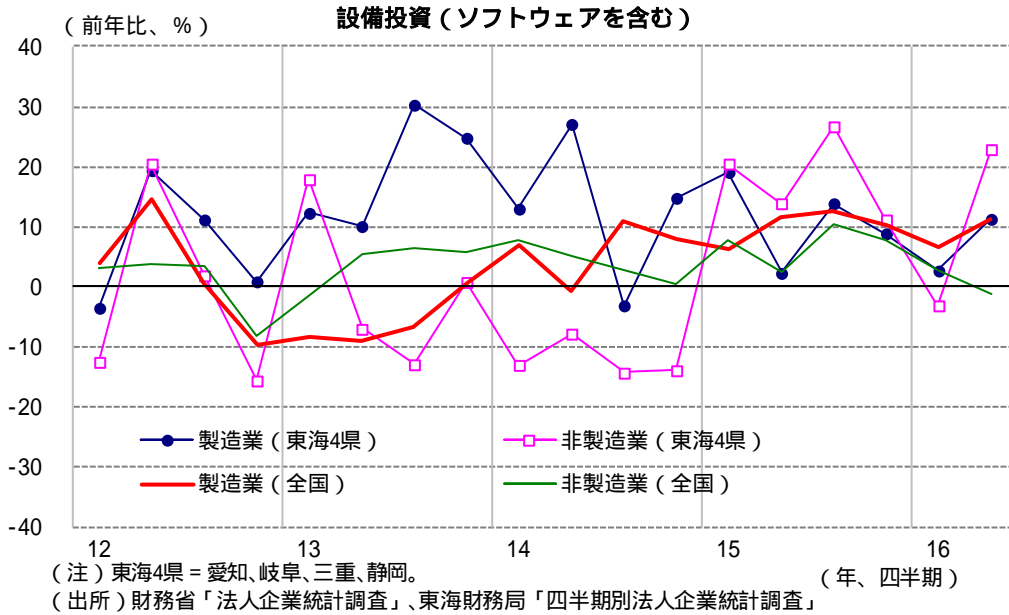


内閣府が8月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、15年8月をピークに弱い動きとなっていたが、16年に入って持ち直している。

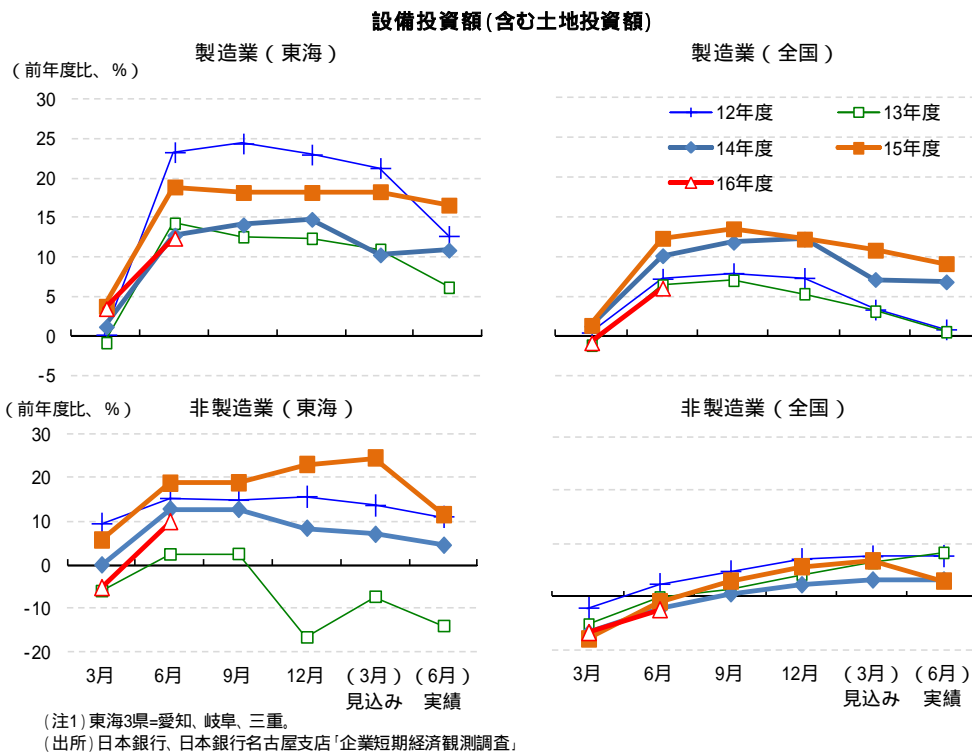


7. 設備投資 ~ 増加している

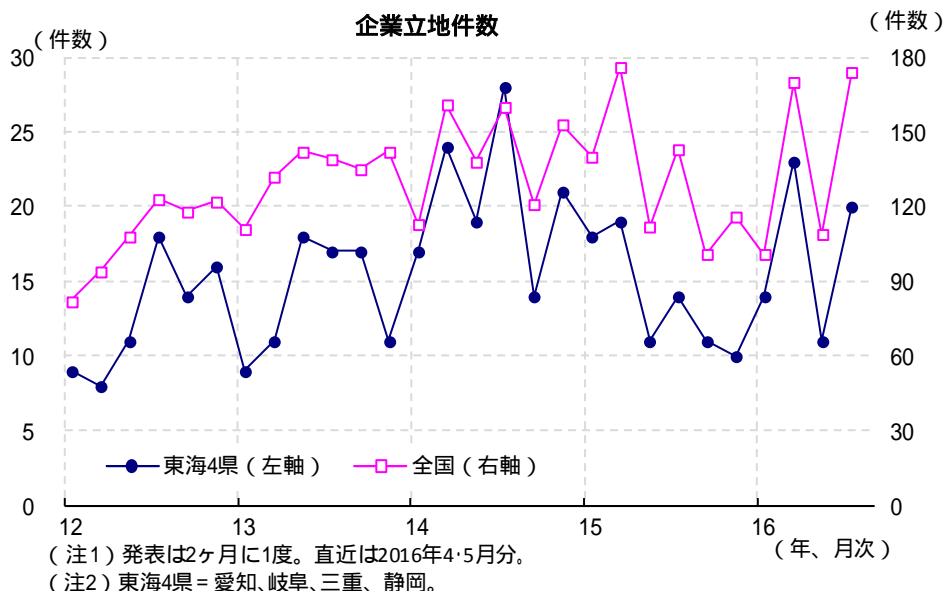
2016年4~6月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+16.2%と7四半期連続で増加した。製造業が同+11.3%と7四半期連続で増加し、非製造業は同+22.9%と2四半期ぶりに増加した。



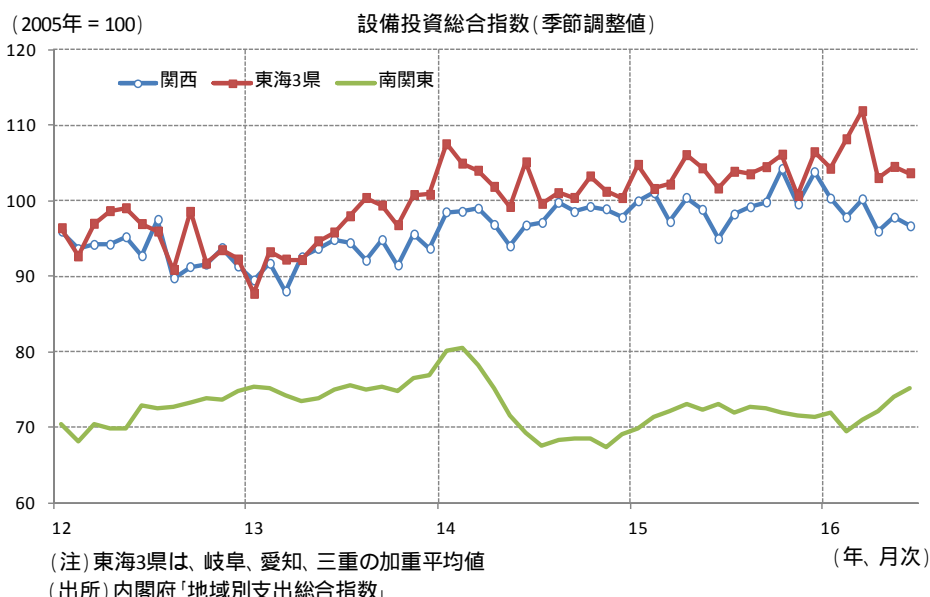
日銀短観6月調査によると、東海3県の15年度の設備投資は、全産業で前年比+14.2%、製造業で同+16.6%、非製造業で同+11.5%と増加、いずれも全国と比べても高い数字となった。16年度は、全産業で同+11.3%、製造業同+12.4%、非製造業同+9.9%と引き続き全国を上回るペースでの増加を見込んでいるが、いずれも前年6月調査時の15年度計画に比べて控えめの数字となっている。



2016年6・7月の東海4県の企業立地件数は20件と、前期(4・5月; 11件)から増加し、前年同期(14件)と比べても増加した。東海地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移していたが、15年度後半以降は持ち直してきている。

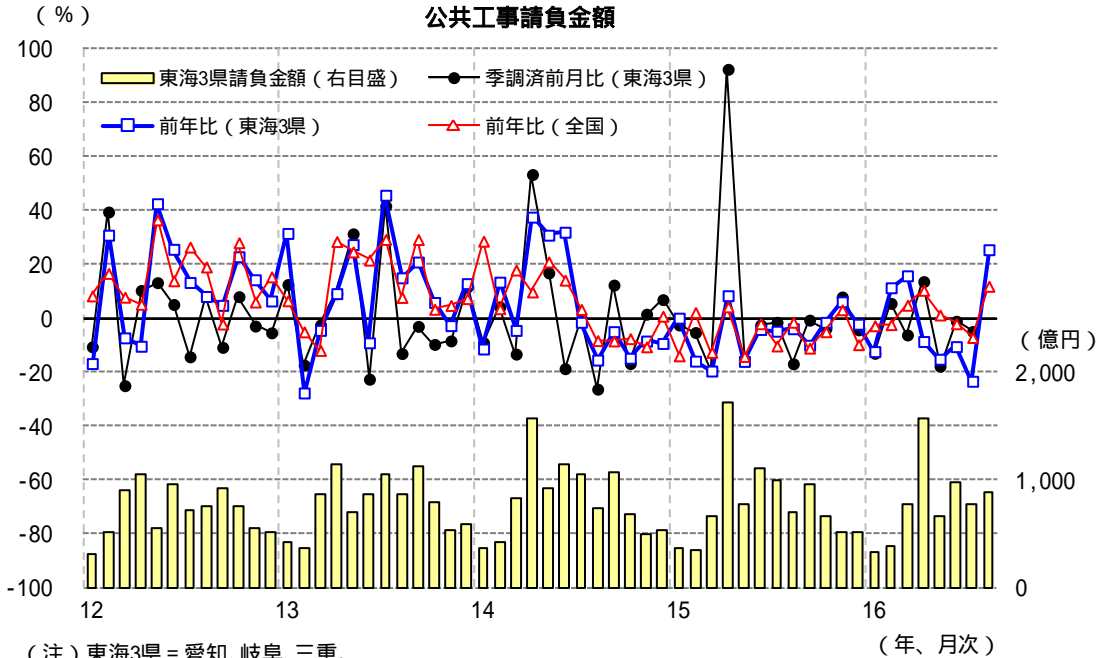


内閣府が8月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、14年以降を均してみると高水準で横ばい圏で推移している。



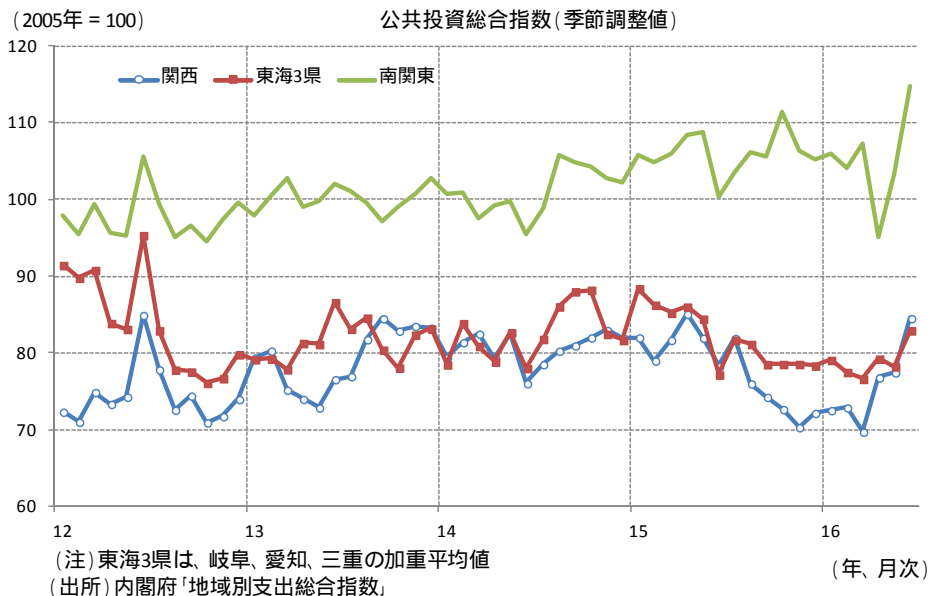
8. 公共投資 ~弱含んでいる

8月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+25.6%の893億円と5ヶ月ぶりに前年を上回ったが、均してみると弱含んでいる。発注者別では、国は同+131.1%と4ヶ月ぶりに大幅に増加し、地方も同+34.2%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、7月の季調済み前月比は-4.7%と3ヶ月連続で減少した。公共工事請負額の先行きについては、均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。



(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

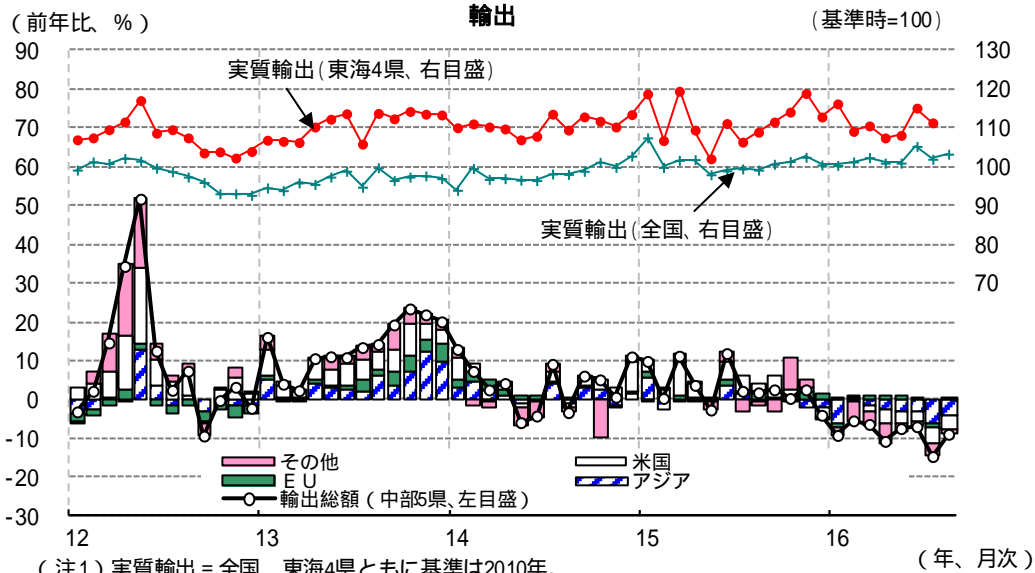
内閣府が8月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、15年度に入って以降減少してきたが、16年度に入ってから増加している。



(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」

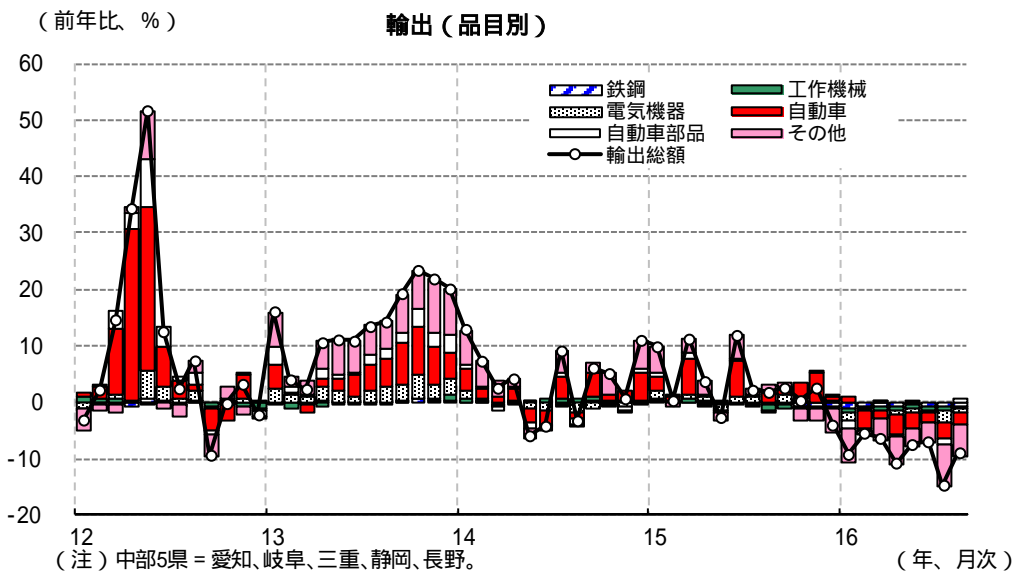
9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに横ばい

7月の実質輸出(季調済)は、前月比 - 3.3%と3ヶ月ぶりに減少した。一方、8月の名古屋税関管内の輸出額(速報)は前年比 - 8.9%と9ヶ月連続で減少した。EU向けは同 + 1.6%と2ヶ月ぶりに増加したが、米国向けは同 - 13.7%と6ヶ月連続で、アジア向けは同 - 11.2%と13ヶ月連続で減少した。先行きは、新興国経済減速の影響もあって、横ばい圏での推移が見込まれる。



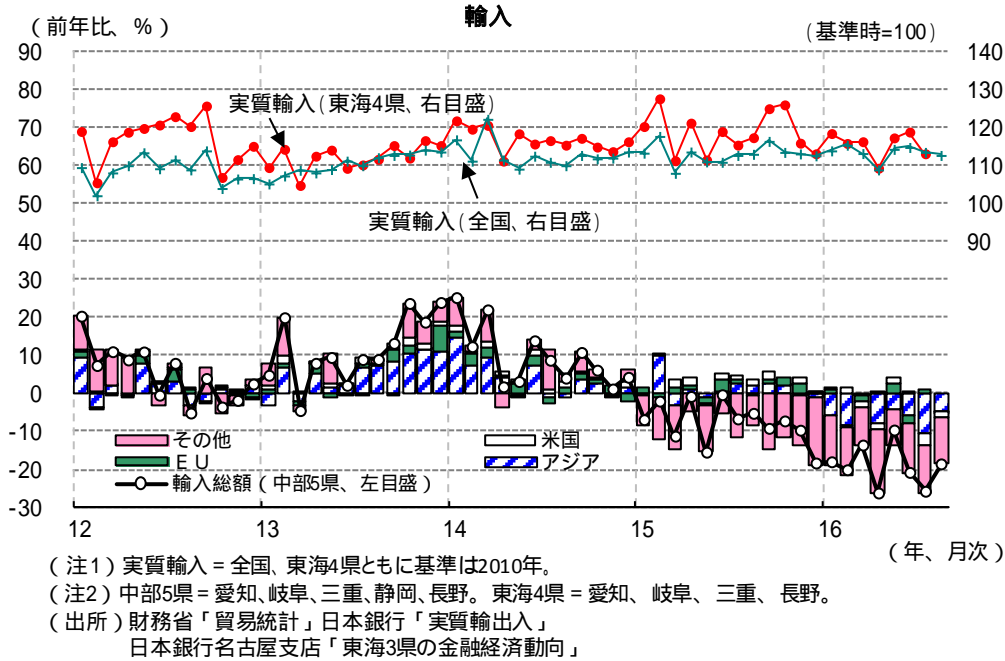
(注1) 実質輸出 = 全国、東海4県ともに基準は2010年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

8月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、自動車部品(前年比 + 5.8%)と3ヶ月ぶりに増加したが、自動車(同 - 7.1%)は7ヶ月連続で減少し、工作機械(同 - 19.2%)は14ヶ月連続、鉄鋼(同 - 28.5%)は13ヶ月連続、電気機器(同 - 4.6%)は5ヶ月連続で減少した。



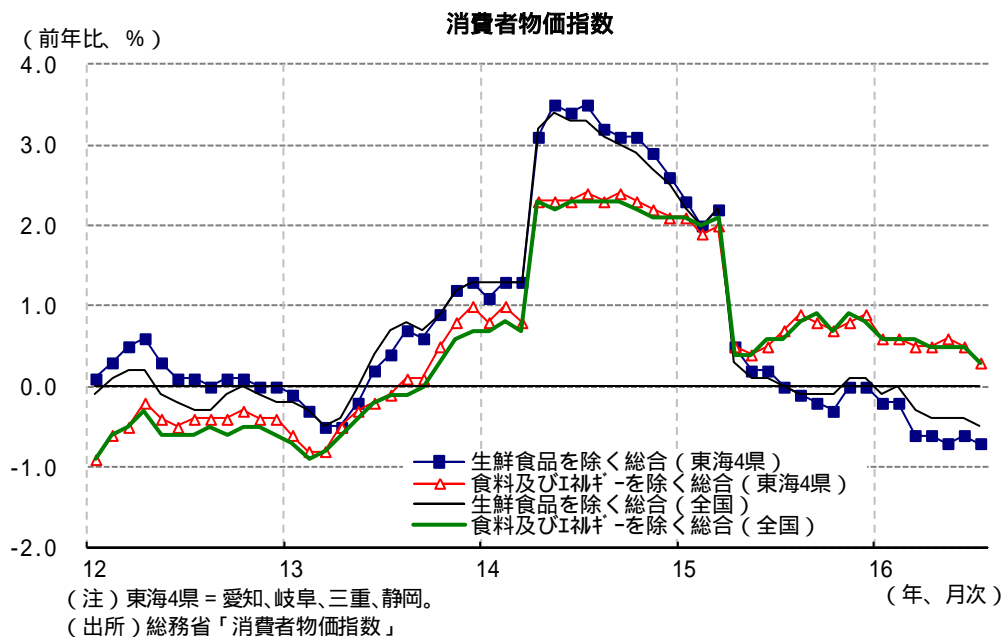
(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

7月の実質輸入(季調済)は、前月比 - 4.8%と3ヶ月ぶりに減少した。一方、8月の名古屋税関管内の輸入額(速報)は前年比 - 18.4%と20ヶ月連続で減少した。品目別には、がん具及び遊戯用が増加したが、原油及び粗油、液化天然ガスなどが減少した。地域別には、米国、アジア、EU、中東などが減少した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



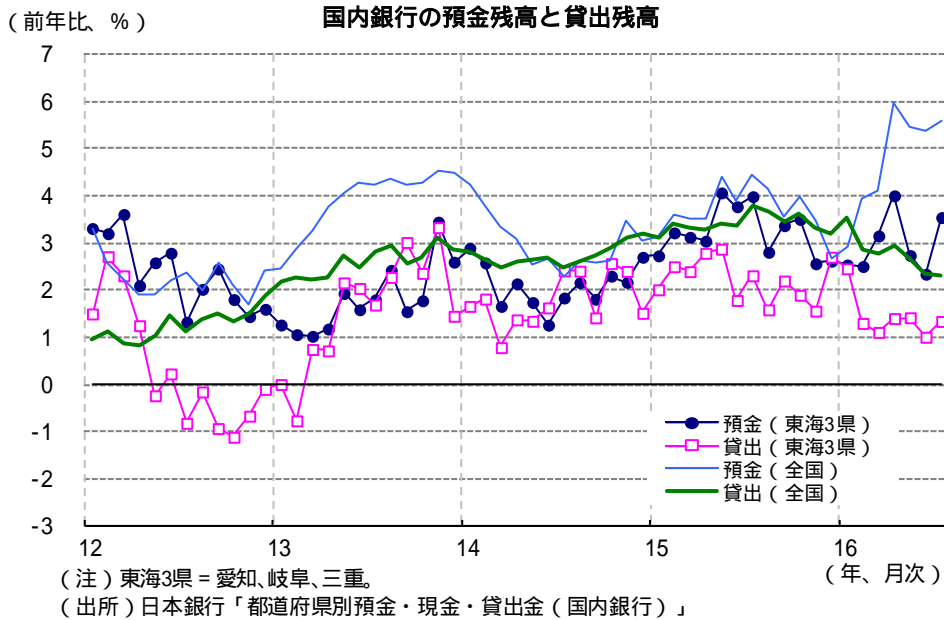
10. 物価 ~ 低下している

7月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比 - 0.7%と7ヶ月連続で低下した。食料品価格の上昇が続いているものの、エネルギー価格は低下している。食料・エネルギーを除く総合は同 + 0.3%と36ヶ月連続で上昇しているが、上昇率は縮小している。今後も、エネルギー価格の下落や円高による輸入物価下落が物価低下圧力として働くため、物価は低下基調で推移しよう。



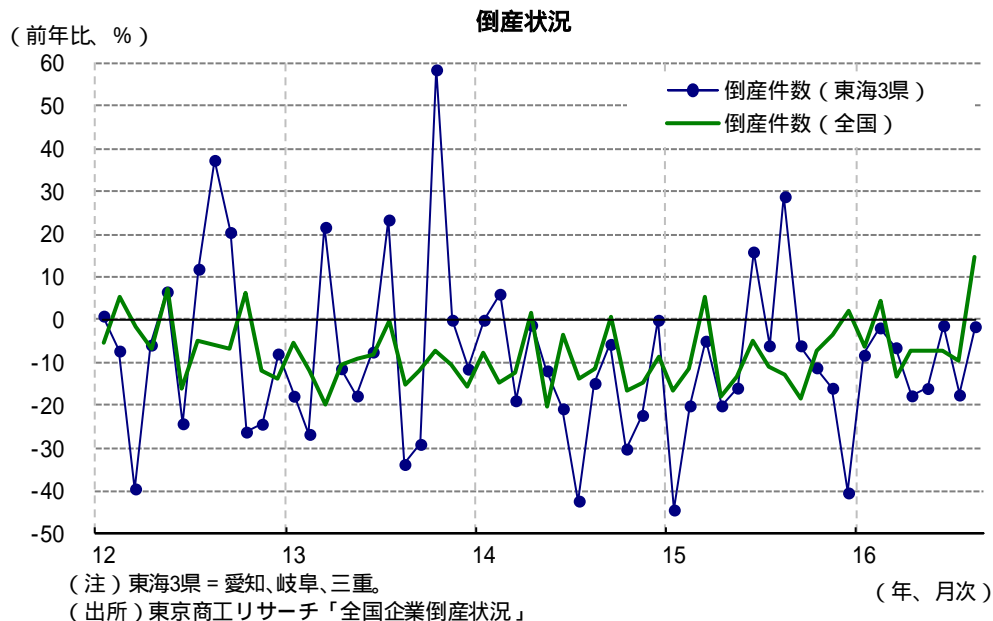
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

7月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、法人預金が増加していることを主因に、前年比+3.5%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.3%と41ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

8月の東海3県の倒産件数は前年比-1.5%の66件と12ヶ月連続で減少した。愛知県は前年比+15.4%と2ヶ月ぶりに増加し、岐阜県は前年と同水準、三重県(同-70.0%)は5ヶ月連続で減少した。また、8月の東海3県の負債総額は、同-67.2%の82億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	全国	→		→	
	東海	→		→	輸出	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
個人消費	全国	→		↗	全国	→		→	
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
住宅投資	全国	↗		↘	全国	→		→	
	東海	→		→	生産	東海	↗		→
	関西	↗		→	関西	↘		→	
設備投資	全国	→		→	全国	↗		→	
	東海	↗		→	雇用	東海	→		→
	関西	→		→	関西	↗		→	
公共投資	全国	↗		↗	全国	→		→	
	東海	↘		→	賃金	東海	→		→
	関西	↗		→	関西	→		→	

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は9月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		8月のコメント	9月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	下げ止まっている	下げ止まっている
	東海	下げ止まっている	下げ止まっている
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	持ち直しが一服	持ち直しが一服
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しが一服している	持ち直している
7. 設備投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	増加が一服している	増加している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
8. 公共投資	全国	下げ止まりつつある	増加に転じる
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価、消費者物価とも下落	企業物価、消費者物価とも下落
	東海	低下している	低下している
	関西	緩やかに低下	緩やかに低下
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シェード部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。
 現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。
 ～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
 右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。